

家庭系ごみ処理手数料の市民還元事業  
新規事業の検討状況について

家庭系ごみ処理手数料の使途（市民還元事業）における、「次世代につながる未来投資的な施策」として、新たに実施する事業を紹介します。

＜次世代につながる環境教育の充実＞

○COOL CHOICE がたっこプロジェクト（令和2年度9月から開始）\* 詳細裏面

概要：ESD（持続可能な開発のための教育）の視点から環境教育を推進するため、大学生を対象に、基本的な知識の習得、及び小中学校における環境学習の授業デザインや運営の支援・助言等のスキル習得を目的とする講座を開催し、学生主体の環境学習モデルプログラムを作成する。

対象：環境教育に関心のある大学生 10～15名程度

運営：NPO法人 みらいず works

計画：令和2年度 全5回のプログラム（フィールドワーク・講義）を実施  
令和3年度 授業運営の支援を経験し、スキルを習得する。

＜資源循環共生圏構築への取り組み＞

○環境優良品業者認定制度（令和3年度新規事業）

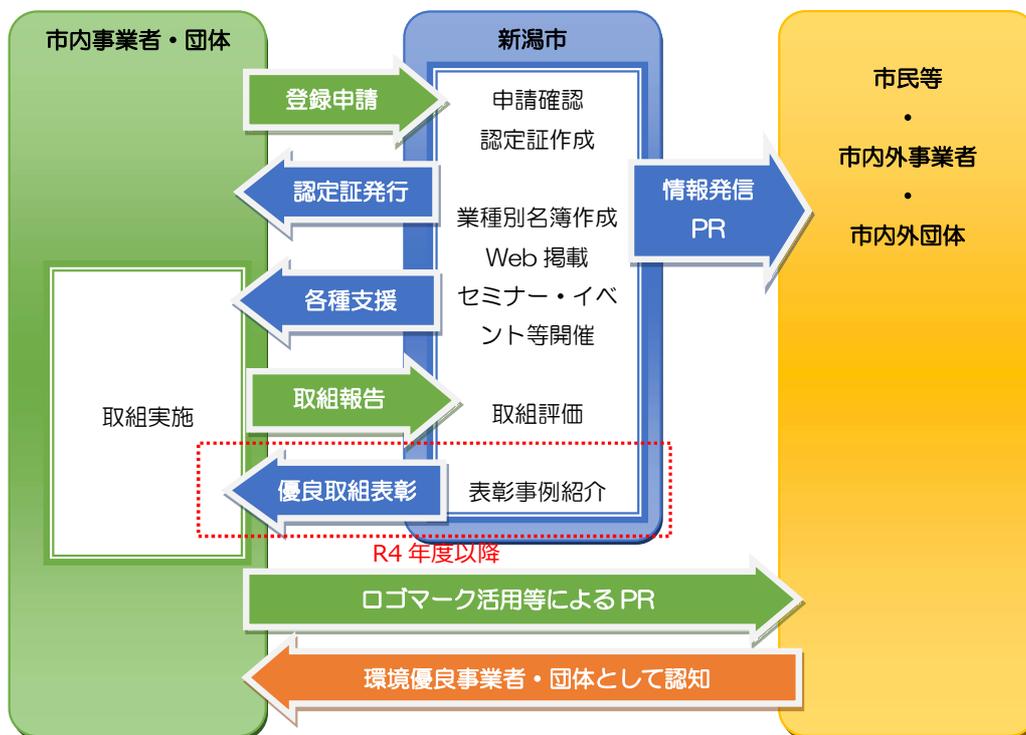
概要：脱炭素化や3Rの推進等に取り組む市内企業・団体を募集し、認定登録する

目的：市内事業者の積極的な取り組みを広く市民等へPRすることで、他事業者への波及を図り、地域全体での連携や行動を推進する。

計画：令和3年度4月から運用開始

認定事業者には、市による積極的なPRや、ロゴマークの活用、国・県への補助金申請支援などのメリットを予定

表彰制度の創設や、認定事業者を対象とした補助金の導入なども検討



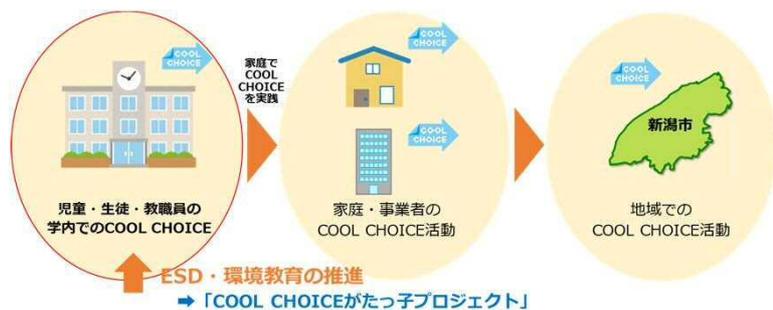
# COOL CHOICEがたっこプロジェクト

## ◆本プロジェクトの最終目標

将来を担う子ども達に、低炭素型ライフスタイルが当たり前の行動として定着し、学校から家庭、事業所、地域へ取り組みを波及させ、地域全体での低炭素型ライフスタイルの実践。

## →低炭素型ライフスタイルの波及のため国民運動COOL CHOICEを普及させる

(COOL CHOICE：省エネ・低炭素型の製品、サービス、行動など地球温暖化対策のあらゆる“賢い選択”を促す国民運動)



探求型の環境教育を行うにあたり、子どもたちがより興味を持って取り組める学習プログラムを学生を中心に関係者とともにより作り上げる。そのため、基本的知識を身に付ける必要がある

## ◆最終目標実現に向けた本プロジェクトの目的

小中学校等での探求型の環境教育を支援するためのモデルプログラムをつくる

## ◆本プロジェクトの育成ゴール（イメージ）

参加する学生が環境問題に対する基本的な理解を持ち、学校の授業における環境学習の授業デザインや運営の支援ができる。

令和2年度：内発的動機を引き出し、ESD（環境教育の現場）を理解し、基本的スキルを学ぶ

令和3年度：授業運営の支援を経験しスキルを習得する

## ◆令和2年度のプログラム実施概要

ステップ1：感じる

ステップ2：理解する

ステップ3：考える

回数	日程	内容
1回目	9月26日(土) 【感じる】	<フィールド体験> 森と自分との繋がりを感じる、間伐材の炭焼き体験 ゲスト：森山義一氏（株マルユウ）、白井智雄氏（おらって協議会）
2回目	10月10日(土) 【感じる】	<フィールド体験> 農業と教育、地域との共生を感じる。土づくり体験 ゲスト：高塚俊郎氏（タカツカ農園）
3回目	11月21日(土) 【理解する】	<講義、対話> 学校における環境学習の事例理解 ゲスト：にいがたNGOネットワーク国際教育研究会RING 関愛氏
4回目	未定 【考える】	<予定> ファシリテータースキルアップ 教育ファシリテーターの役割、スキルの理解とワークショップ手法の体験、教育ファシリテーターの基本を体験しワークする
5回目	未定 【考える】	<予定> 探究学習の授業（ワークショップ）デザイン案を作成してみる 探究学習の授業（ワークショップ）デザインのポイント、探究型の環境学習プログラムを設計する、 ・ブラッシュアップ、今後に向けたプラン作成 ・次年度以降の内容検討